

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 L 保木本、千賀、宮島

2 山城・ルート 明神岳東稜

3 交通手段 車

4 行動記録

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

計画書ではラクダの科尔まで行くことになっていたが、先行パーティーが2組いて苦勞していたため、初日はひょうたん池でテント泊。もともと状況をみて柔軟に対応する予定だった。結果的にひょうたん池泊で正解だった。(突っ込んでいたら日没までにくだの科尔まで到達できなかつたらろう)

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す
特になし

C その他、ルートに関する情報・気がついた事等

雪が少なく、第一階段が一番苦勞した。3p ロープを出したが、50m ザイルで支点までいっぱいいっぱいなので、注意が必要。バットレスは問題ない。

写真・感想はヤマレコ参照

報告者氏名 宮島 平成30年5月10日

以下ヤマレコより転載

おっさん3人で、半年前から計画していた明神岳東稜へ。いつもの晴れ女？もないのに天気は快晴。これで敗退したら言い訳ができないとの思いから気合が入る。もっとも自分はフォローを決め込む。

4/28(土)

あかんだな駐車場到着が AM2:30。車中泊で仮眠。寝不足で気合が入らないこともあり、6:50 発のバスで出発。上高地から少し歩いて明神何回も穂高には行っているが、明神橋を渡るのは初めてだ。信大山岳総合研究所裏手から登る。長七の科尔で先行パーティーも見える。どうやら本日の入山は4パーティィ。

ひょうたん池には 12:00 前に到着した。先に行くべきかどうか迷う。先行の 2 パーティーは先に進んでいる。1 パーティーはひょうたん池泊。ひょうたん池泊でも次の日に十分余裕があるとの事前情報と、渋滞に巻き込まれても面倒なので、我々もひょうたん池泊にすることに。ピーカンで日差しが暑い。時間があつたので、夜のためにひたすら水を作った(7L)。寝不足のためにテントで昼寝が気持ちよかった。やることもないので 19:00 に就寝。昼寝のせいもあり夜はよく眠れず。同行 2 名はよく眠っておられた。

4/29(日)

AM2:30 起床。4:30 出発。お隣の方もわれわれよりも 10 分早く出発。急ぐ必要もないのでゆっくりと後ろで待たせていただく。

第一階段では 1 本のザイルでセカンドがベーシック登攀、ただし時間短縮のためセカンドとラストは同時登攀。(セカンドとラストの距離は近づかないので注意)。雪が少ないので第一階段が思ったよりも面倒。1p 目は雪なし。雪が少ないので 1 週間前は登れていたであろう右よりのルートは不可で左側から登攀。上部の木でビレイ。

2p 目は簡単だが、上部のビレイ点の木まで 50m ザイルでいっぱい。一部折れていていずれ完全に折れてしまうだろう。

3p 目は下部が岩で上部は雪。下部の岩はぼろぼろでトップ、セカンドの落石。雪があればなんてことないのだろう。支点はないのでトップはスタンディングアックスビレイ。

結局 3 ピッチをロープで登攀。3 ピッチとも 50m ザイルでいっぱいだった。

その後、雪稜を登ると核心のピラミッドフェースが見える。

核心下の草付きがいやらしそうだったが、思ったよりもねていてザイルはいらない。ただし浮石多くて注意が必要。

核心は 3 級+程度。ここではザイル 2 本で同時登攀。思ったよりもねているのでクライミングシューズなら楽勝だと思われる。といってもフォローなので言いたい放題だが、トップだったら緊張するのだろう。今の自分(メタボ+クライミングしてない)では怖い。なぜかそこそこきれいな残置ロープが 1 本思っきり垂れている。

最後は急な雪稜を登ると山頂。山頂にはめずらしく何も標識もない。雪が少ないのでもう 1 週間後は賞味期限切れだと思う。

下りは稜線沿いを北に進む。途中で懸垂支点があり、歩いても降りられそうでもあったが、ザイルで懸垂下降 40m。岩でザイルが曲がるので回収できるかやや不安だったがうまくいった。懸垂支点は 10m ごとに 3 か所もあるので、ザイル 1 本でも大丈夫だし、そもそも 1 本残置ザイルがあるので、これを利用してバックステップで降りることもできそう。

懸垂で降り切ったところが奥明神沢のコル。13:30 で時間もおしており、雪も緩んでいたのがガンガン降りる。岳沢で日光浴をしている人に明神岳の状況を問われて、リーダーが話していたら「もしかして H 君？」とサングラスで顔を見えないのに、話し方だけで名前を

当てられる。どうやら知り合いらしいが、リーダーはあまり覚えていない様子。1,2回クライミングして飲んだだけの関係らしいが、インパクトがあるのか相手はよく覚えている。ひょうたん池でもテン泊したパーティーは知り合いの知り合いで、共通の知人の近況をポイントで話していた。知り合いが多いですな。

岳沢からもガンガン下って上高地へ。下りでだいぶ疲労がでてきた。テントでもう一泊することも検討したがまだバスもあるので帰宅。帰宅は日付を回って深夜。自分はその後二日間は筋肉痛で寝っぱなし。